

1400　ウエスト切り替えのワンピース

縫う前の下準備

いるもの

□　表布　丈や作りたいそでによって変わるので1/10で計算する。
□　コンシールファスナー　52cmのもの1本
□　接着芯　30cm
□　スプリングホック　小さめのもの一組

オススメの生地

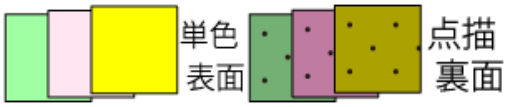
綿シーチング・ブロード、ツイルやギャバ、アムンゼンなど薄地～中厚地の生地

色柄の濃いものだと透けにくくていいですよ。
ポリエステルが入ると、しわになりにくくなります。
夏場はサッカー生地を使うと肌触りがさらさらして着心地がいいです。
透ける色で作りたい場合は下にスリップドレスをお召しになると下着が透けません。
パーティードレスや、発表会のお洋服などを作りたいならサテンで作ってもかわいいですね。
光沢が強すぎる場合は上に一枚オーガンジーを重ねて作ってもいいかもしれません。
ポリエステルアムンゼン、シルデューデシン
やわらかい風合いで、光沢のないワンピースにしたいのであれば、こちらもおすすめ。



本番前に必ず
1/10 サイズを作って！

テープで組み立ててから
裁断に入ってください!!
勘違いや失敗が格段に
減ります！！



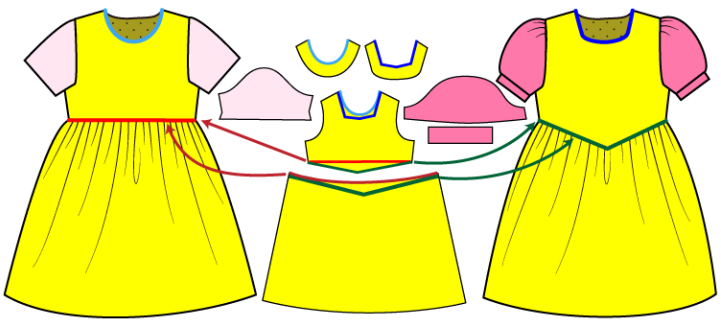
たった3～20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いませんか？

うさこの型紙屋さんが作った型紙には1/10サイズの型紙がオマケで型紙の余白についています。

これを布を切る前に組み立てると、説明書の理解度が一気に上がります。

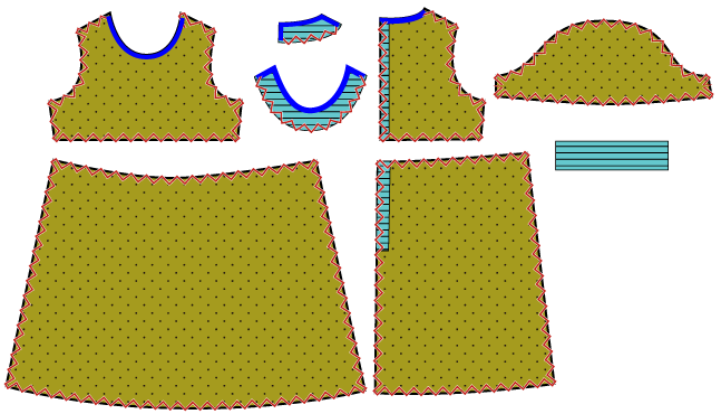
洋裁が、難しく感じるのは理解できないのではなく先が想像できないからです。

パズルと思ってテープで組み立ててみてください。



この型紙は2種類のそでとえりと、ウエストラインが作れるようになっています。

好きな線を選んで作ってください。



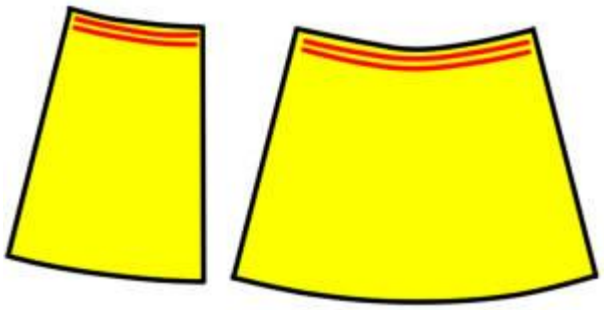
見返しと、薄い生地の場合、ファスナーを付ける後中心の縫い代に接着芯を貼る。

えり首の所は縫い代が中に包まれるのでほつれ止めは不要。
それ以外をほつれ止めする。

詳しくは別紙の【型紙の使い方と縫う前の下準備】参照

接着芯の貼り方　ほつれ止め　ほつれ止め液

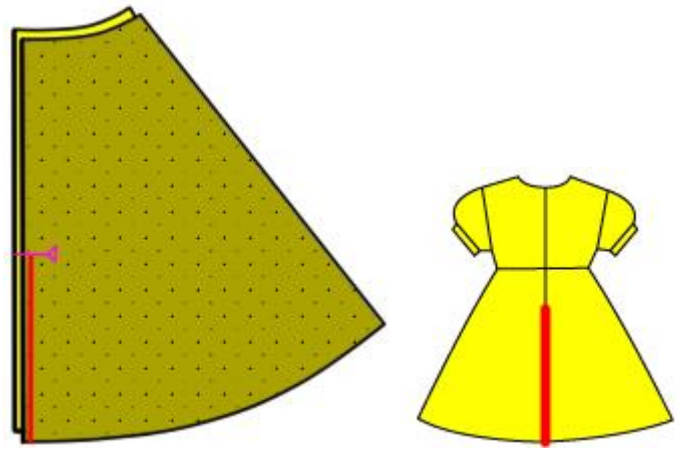
ギャザーを寄せる





まっすぐ縫うコツ　ギャザーの縫い方

スカート部分に2本ギャザーをよせる。

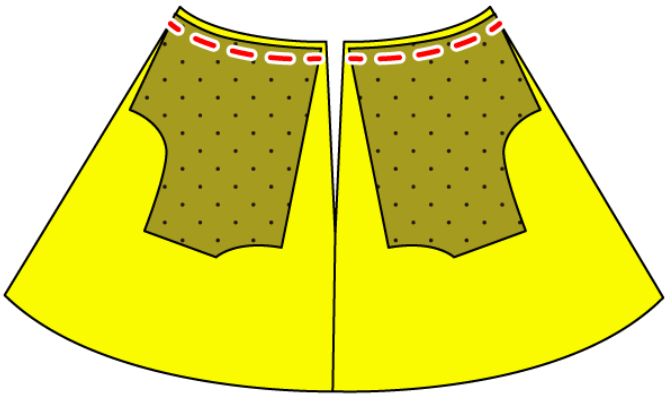


後スカートのファスナーを付ける位置から下を1.5cm幅で縫う。

ピンクの印の所を「あきどまり」といいます。

ここも縫い代は左右に折る。

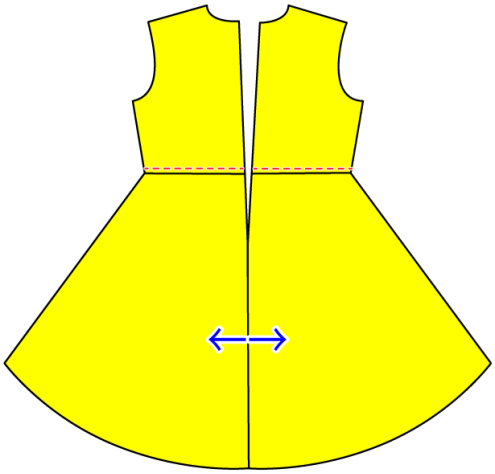
コンシールファスナー付け　待ち針の刺し方　返し縫い

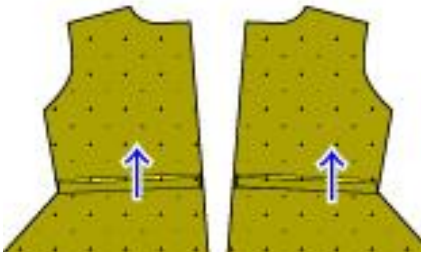


スカートと後身頃（上半身）を表同士が内側になるように重ねる。

1cm幅で縫う。

縫い代は上半身側へ折る。

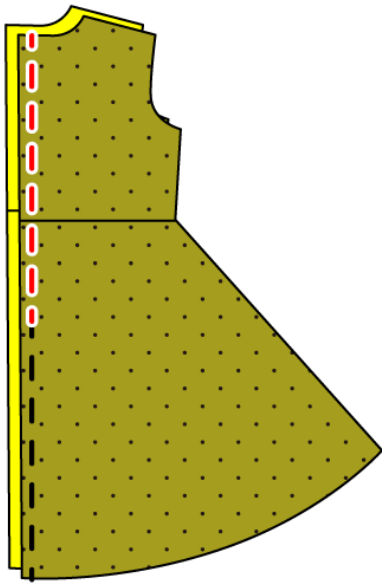




後身頃（上半身）を起こす。

縫い代を上半身側に折って、表側の縫い目から5mm離れた所を縫って縫い代を固定する。

ファスナーを付ける



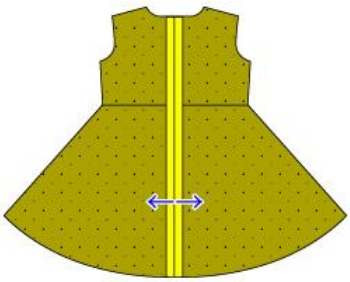
コンシールファスナー付け



後中心のファスナーをつける所を1.5cm幅で仮縫いする。

後でほどくので、ここは返し縫いをしない。

下糸を目立つ色の糸に替えて縫うと、ほどくときに糸が見やすい。

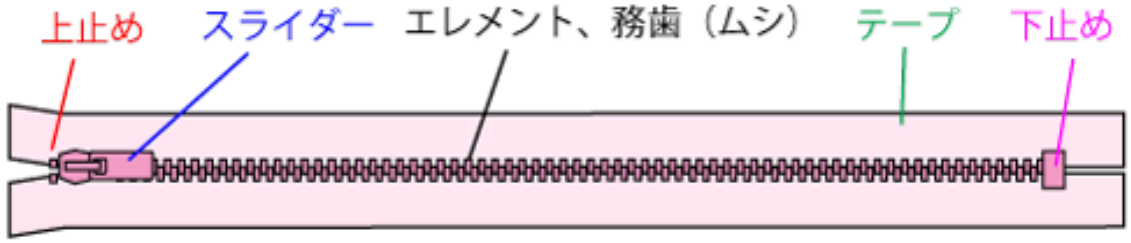


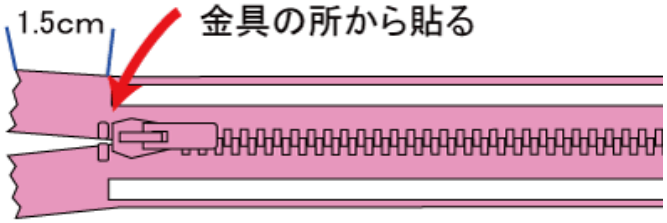


これを縫わないと写真のようにあきどまりで縫いずれやすいので、ひと手間ですが縫ってください。



アイロンで縫い代を左右に折る。

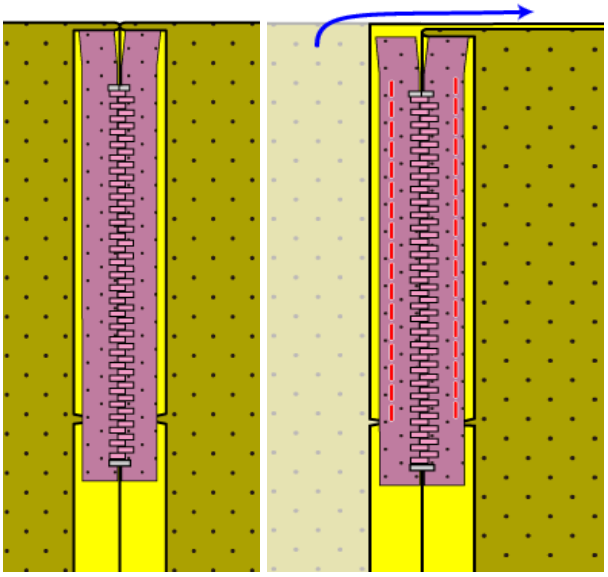




熱接着両面テープ

ラックテープがあればファスナーの表面に貼る。

裏を上にして生地を置く。
ラックテープのはくり紙をはがす。

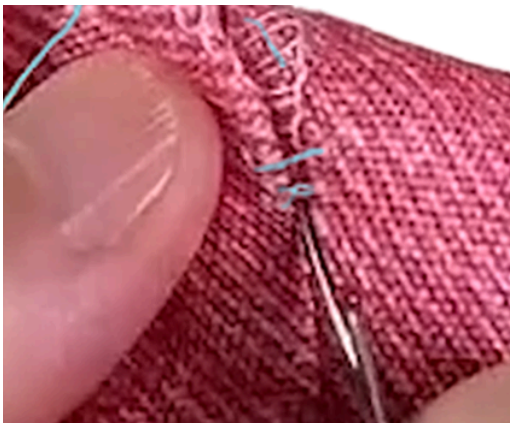


縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置き、中温のアイロンで15秒押える。

ラックテープが無ければ待ち針で固定する。

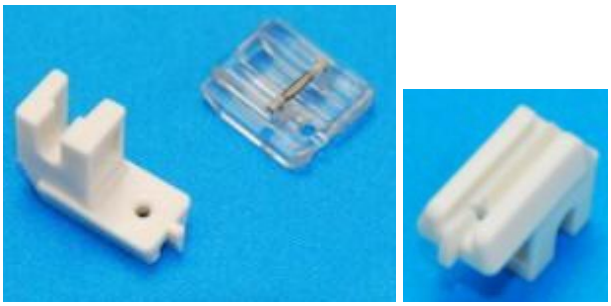
ファスナーの端から2mm位の所を、上半身の身頃（胴体）とスカート本体をよけて、ファスナーと縫い代だけを縫う。

反対の辺も同様に縫う。



糸のほどき方

糸きりハサミやリッパーで2番目に縫ったファスナーをつける部分の糸をほどく。



ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替える。

ミシンによって若干形や針の落ちる位置が違うので、ミシンに合ったものを用意する。

左側は軸から替えるタイプ、右は後ろのボタンを押して押さえを交換するタイプ用

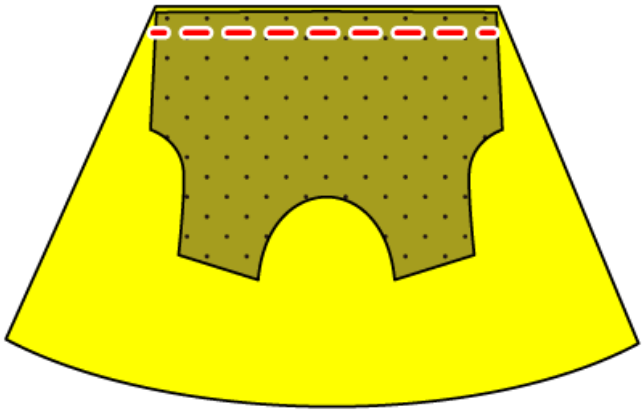


コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っている。

この溝にファスナーのムシ（レール部分）を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫える。

あきどまりまで縫う。

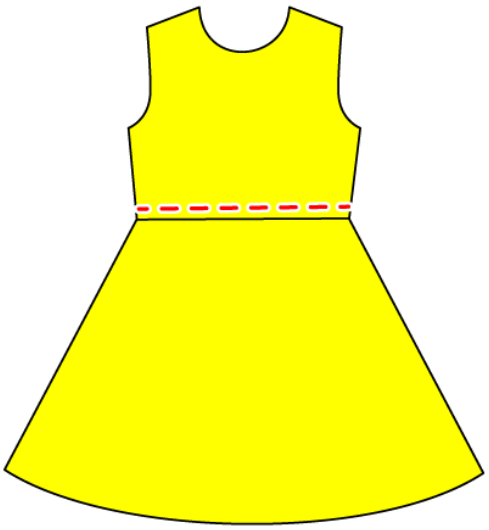
前を縫う





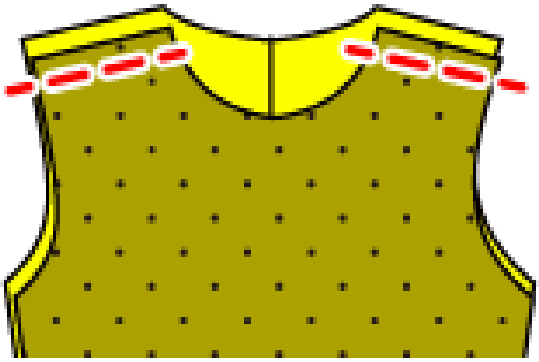
前上半身（身頃）と前スカートを表同士が内側になるように重ねる。

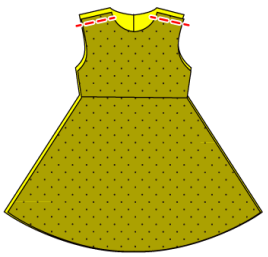
1cm幅で縫う。



上半身（身頃）を起こして縫い代を押さえるために表側の縫い目から5mm離れた所を縫う。

縫い代は上半身に向けて折る。

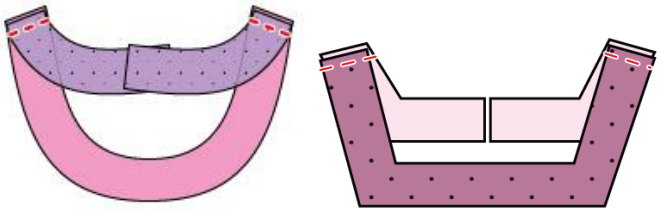




前後を表同士が内側になるように重ねる。

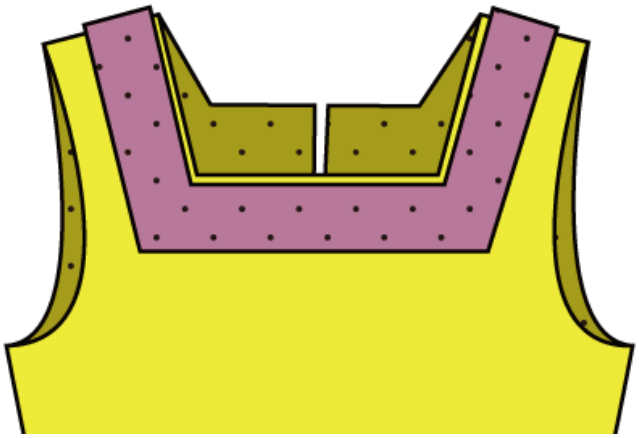
肩を1cm幅で縫う。

見返しを付ける　えりは2種類あるので好きな方で作ってください。



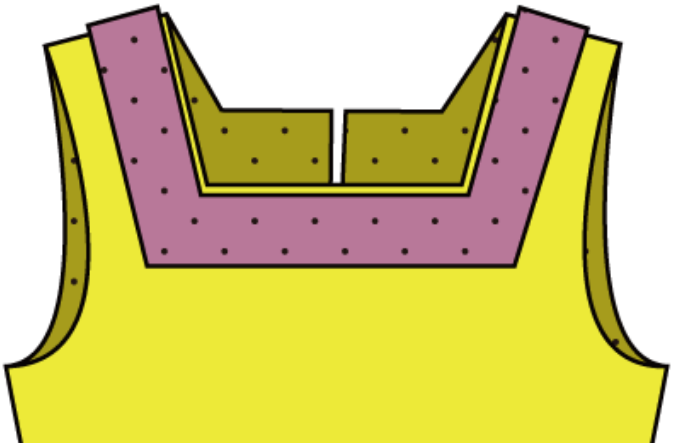


前後の見返しを表側が中になるように重ね肩のところを1cm幅で縫う。

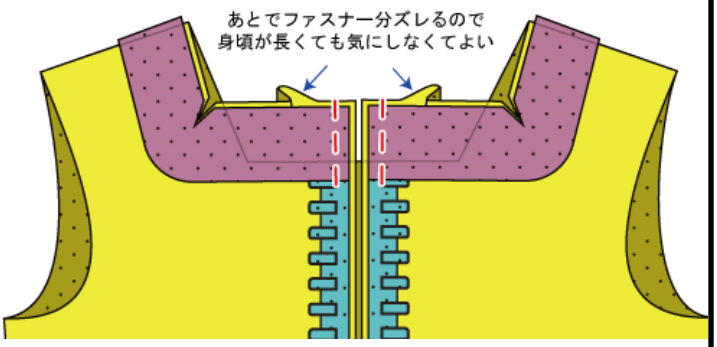


えりの上に見返しを重ねる。

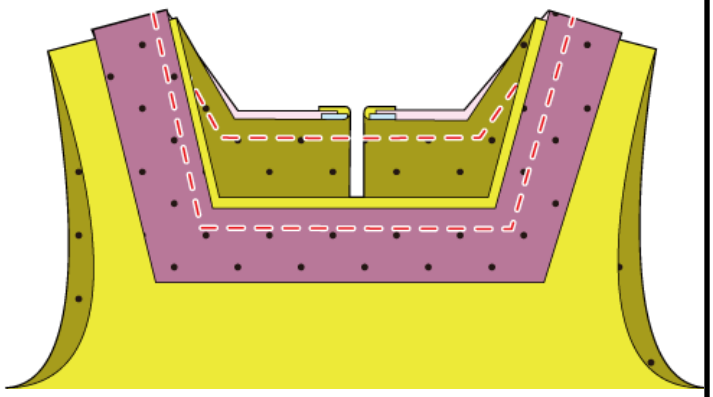
前後のえりの身返しの部品を表同士が内側になるように重ねる。



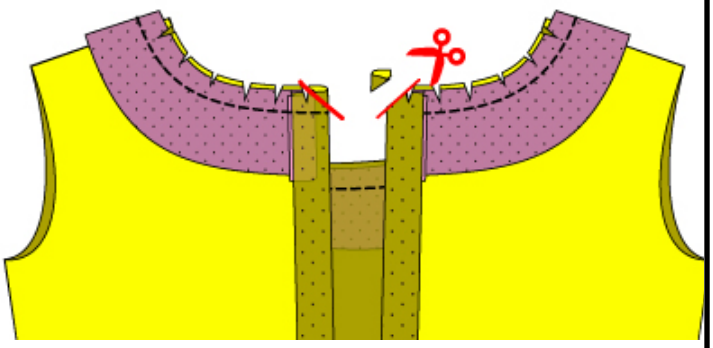
ファスナーをつけて肩を縫った身頃（胴体）と見返しを表同士が内側になるように重ねる。



ファスナーのついた辺と見返しの端を合わせて1cmの所を縫う。



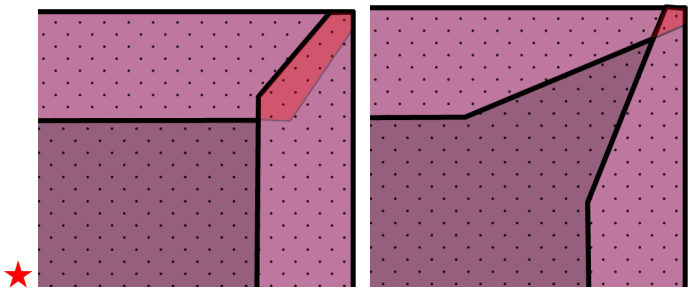
えり首を1cm幅で縫う。



引きつらないように、縫い代を5mm幅に切り落とす。

糸を切らないようにカーブに1～1.5cm間隔で切り込みを入れる。

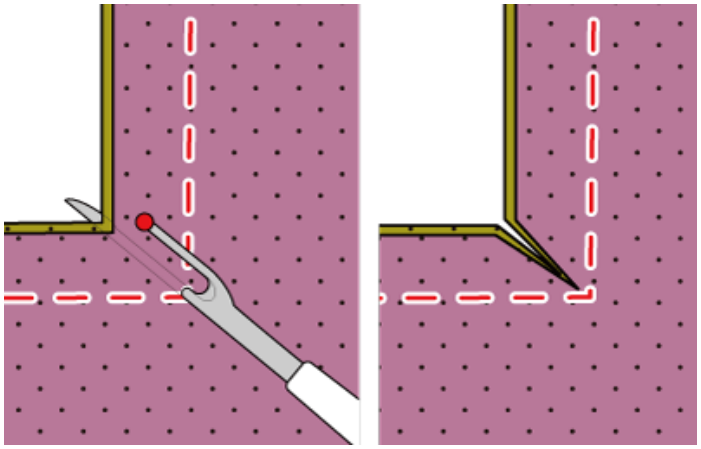
縫い目を切らないよう0.2cm程はなれた所で、角が鋭くなるように斜めに切り落とす。



角の縫い代を斜めに切る時は鋭角に切る理由。

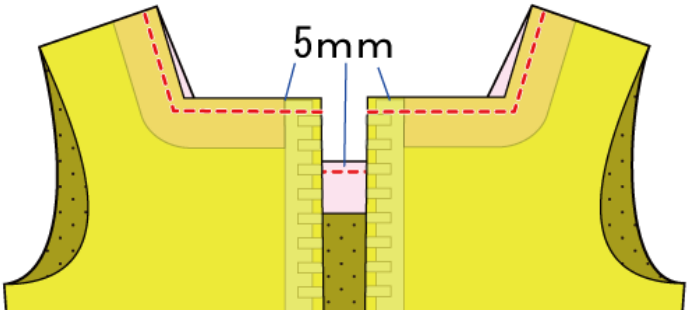
ただ斜めに切っただけだと縫い代を折り畳んだ時重なり分が多いので厚くなりやすい。

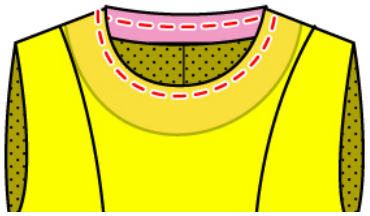
鋭角にすると重なり分が減って角がすっきりする。



切り込みが浅いと引きつるので、リッパーを縫い目の外側ギリギリに刺し、押して切る。

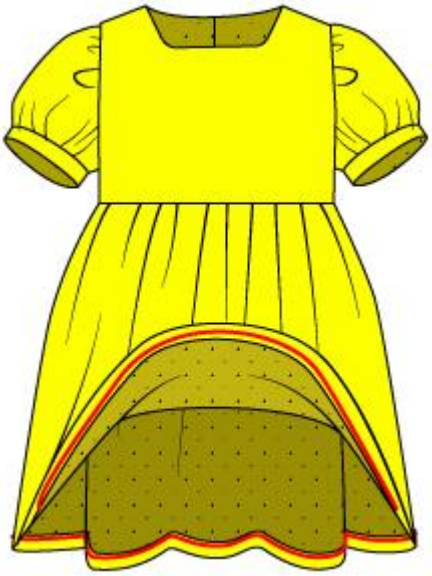
こうすると縫い目を切る心配をせず深く切り込みをいれられます。





見返しを裏に折る。

アイロンで形を整えて5mmの所を縫う。





すそをあげるときスカートのすそがカーブしていると、カーブの弧は内側と外側では長さが異なるので、折りあげた時端がだぶついてしまいます。

そのため、すそから5mm位の所にギャザーを寄せて大きなしわが入らない程度に縮めながら、アイロンで縫い代を折って行きます。

アイロンで折り目を付けてからミシンで縫う。

すそあげ



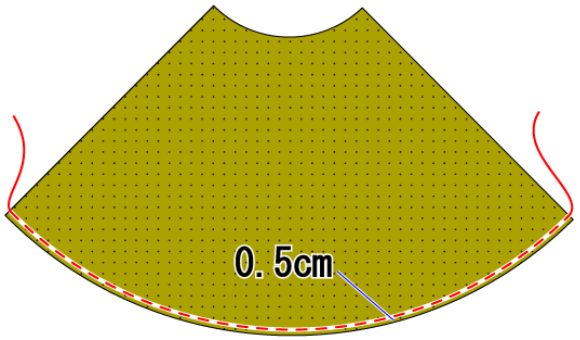
カーブのある辺の縫い代は、待ち針だけで縫うと縫い代がずれてねじれてしまいやすい。

このような場合は、ラックテープを使用すると縫製中の生地ずれを防止できる。



ラックテープ

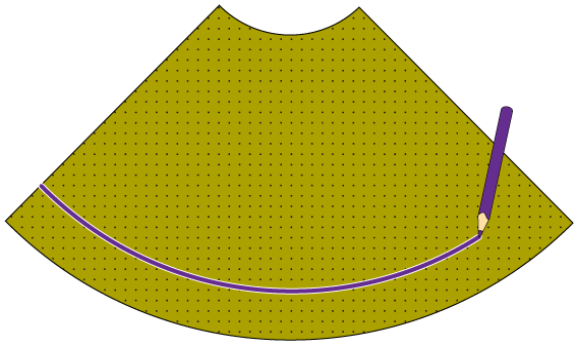
曲線のすそ上げ



ギャザーの縫い方

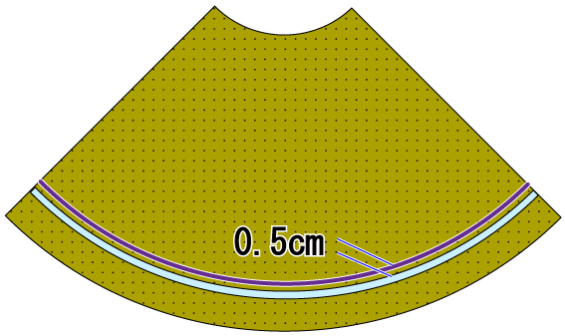
すそから3～5mmくらいの所に、ギャザー縫いする。

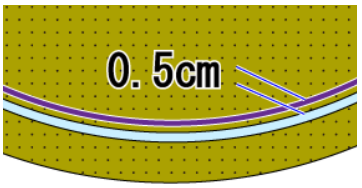
下糸（ミシンのボビン側の糸）を引っ張りながら縮める。



すそに4cmの平行線を引く。

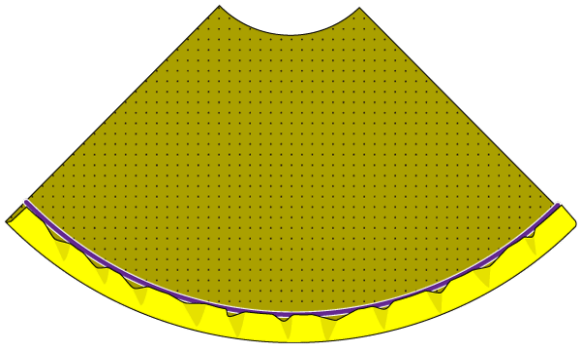
縫い代の折り方

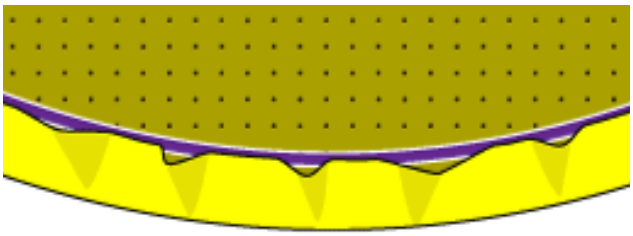




平行線から0.5cmすそ側にラックテープを貼る。

ない場合は待ち針で止める。

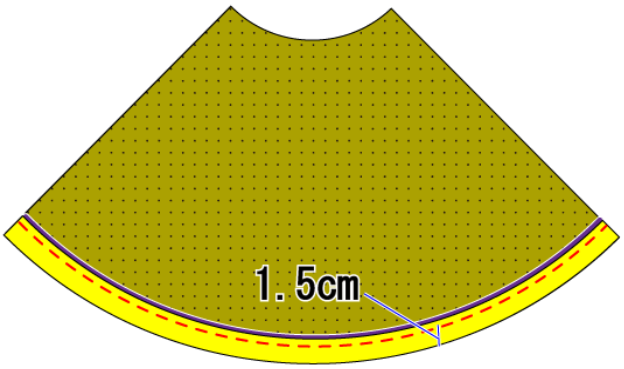


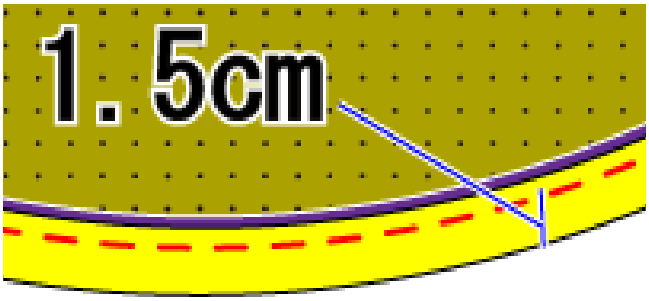


折り紙を折る時のように、補助線にすその端をあわせて、アイロンで折る。

そのまますそ上げをすると、縫い代の端の辺が出来上がりの長さより長いため、しわがよったり綺麗にすそ上げする事が出来ません。

ギャザー縫いした糸を引っ張って縮めることで、ダブつきをなくせる。





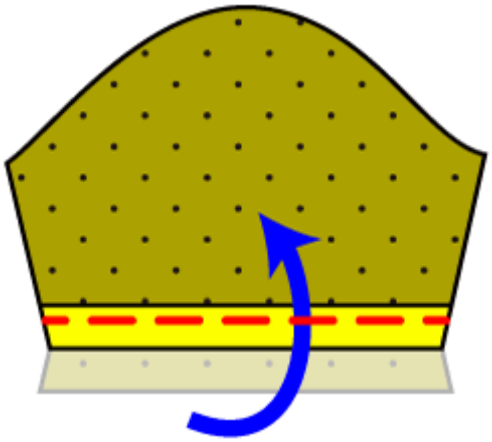
下糸（ミシンのボビン側の糸）を引っ張りながらうねりがなくなるように縮める。

ラックテープの剥離紙をはがし、縫い代を裏に折ってアイロンで固定する。

1．5cmの幅で縫う。

こうすると生地がねじれずに、すそを上げることができる。

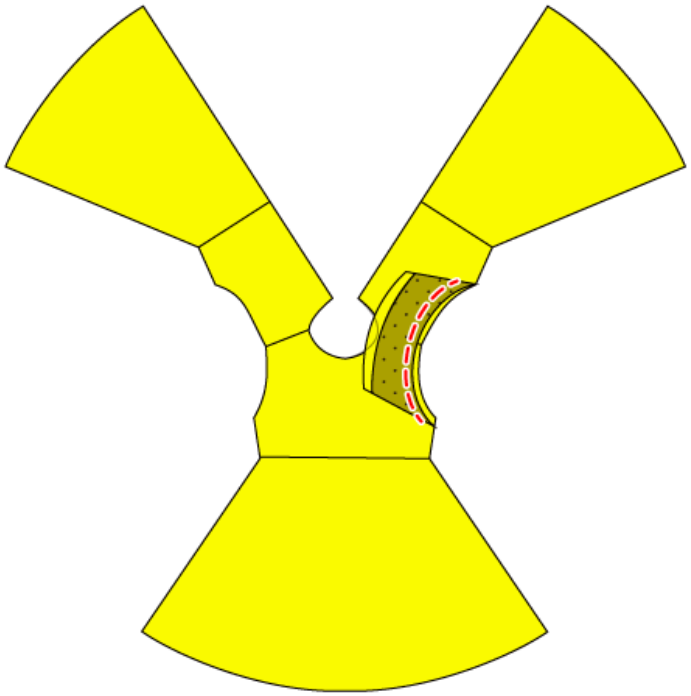
そで　　半そでの場合



アイロンでそで口を2cm裏へ折る。

1．5cmのところを縫う。

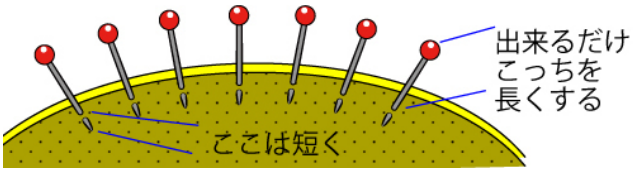
縫い代の折り方



そでが引きつらないコツ

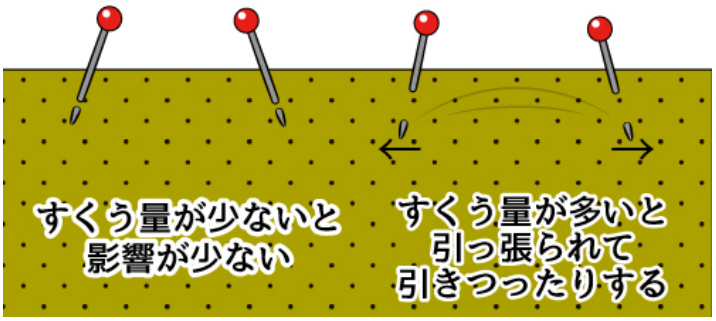
そでと身頃が表が内側になるように身頃に重ねる。

1cm幅で縫う。



また待ち針を奥まで刺すと、縫う時に抜きにくくなり、縫いにくさが上がる。

出来るだけ浅く、少しだけ刺すというのを覚えておくと綺麗に縫いやすくなる。

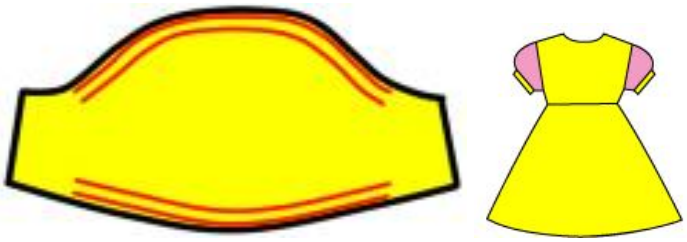


待ち針を深く刺すと形が歪み、引きつりやすくなる。

浅く刺すことで、縫いやすくなり仕上がりも安定する。

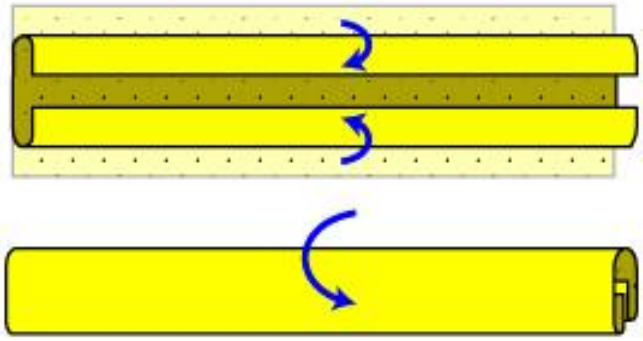
半袖はここまで、次は脇まで飛ばしてください。

パフスリーブの場合



そで山の中心に印がついているか確認する。つけ忘れていたらつける。
（これは位置合わせに必要）

そで山とそで口の縫い代に2本ギャザーをよせる。
（赤い部分）

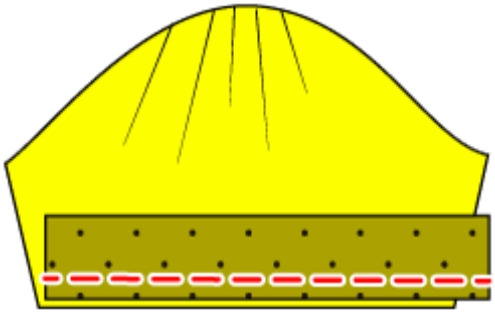




カフスの縫い代をアイロンで折る。

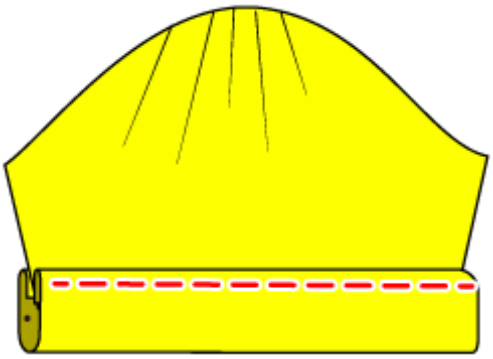
上下の縫い代を1cmで折る。

さらに半分に折って折り目をつける。



カフスとそでを表同士が内側になるように重ねる。

1センチ幅で縫う。



カフスを裏に折る。

そでとカフスの縫い目から5ミリ下を縫う。

脇を縫う



表が内側になるように身頃（胴体）に重ねる。
そでの縫い代は身頃側に折る。

2cm幅で縫う。

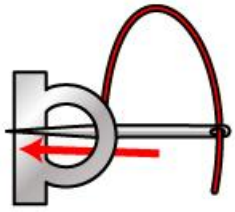
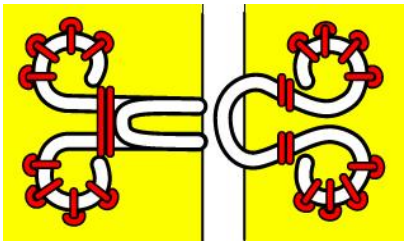
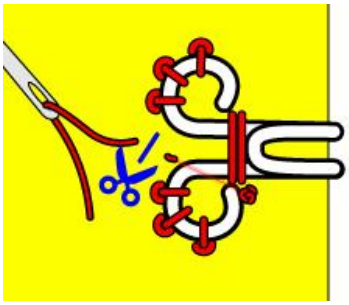
お子さんが大きくなったら脇の縫い代を外側に縫い直す。

縫い代の幅を5mm狭くするごとに2cm大きくなります。



お好みで後中心にスプリングホックをつける。

ミシン糸は手縫いと逆方向にねじって糸を作っているので、右利きの人は手縫い糸、左利きの人はミシン糸を使う事。
逆の糸を使うと、縫うだけでどんどんねじれが強くなり、からまりやすい。

	細めの手縫い糸を3～40cmに切る。 糸の端を玉結びする。
スプリング・カギホック 	スプリングホックのつけ方 金具の穴に外側から針を刺し抜く。
	金具の穴に外側から針を刺し抜く。 糸を引いていくとわっかができる。 そのわっかに針を通すと毎回玉止めしているようなものなので強くなります。
	糸を引き絞る。 これを糸の太さに応じて4～5回程度すれば良い。
	軸を1～2回縫っておくとグラつきにくくなる。
	玉止めのすぐそばで糸を切ると、結び目がほどけやすいので、布の下を4～5mmくぐらせてから糸を切る。 この時表の見える所に糸が出ないように気を付ける。